

箱崎 15

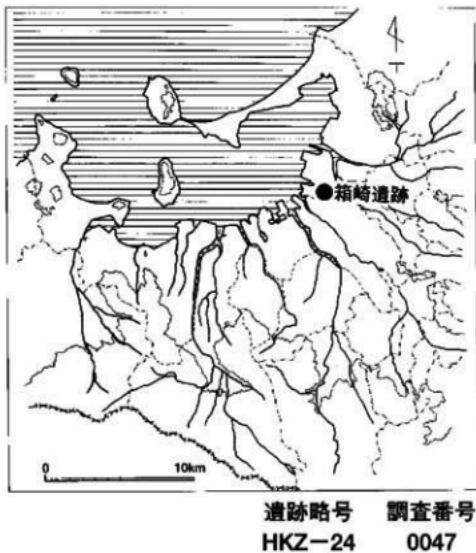
—箱崎遺跡第24次調査報告—
福岡市埋蔵文化財調査報告書第768集

2003

福岡市教育委員会

HAKO ZAKI
箱 崎 15

—箱崎遺跡第24次調査報告—
福岡市埋蔵文化財調査報告書第768集

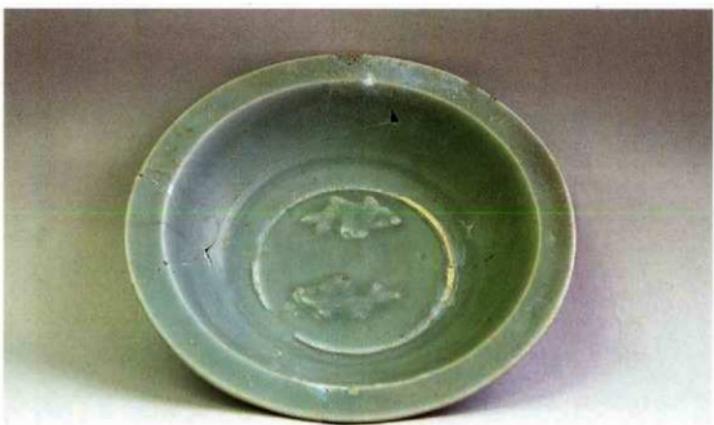


2003

福岡市教育委員会



1. SX07 木棺墓



2. SK14 出土龍泉窯青磁盤

序

古くから対外交渉の拠点の一つとして、あるいは筥崎宮の門前町として栄えた箱崎遺跡の発掘調査は近年の都市周辺部の再開発に伴い、現在までに30次を越え、調査の進展とともに新たな知見が得られています。

本書は共同建設に伴って実施された第24次調査を報告するものです。式内社筥崎宮の周辺は対外交渉の拠点の一つとして、あるいは蒙古襲来など度重なる戦乱の場として、歴史上非常に重要な地域です。

調査では蒙古襲来前後の時期の井戸や墳墓などの遺構が検出され、往時の繁栄を偲ばせる輸入陶磁器が出土するなど多くの成果を収めることができました。

本書が文化財に対する認識と理解を深めていく上で広く活用されますとともに、学術研究の分野で役立つことができれば幸いです。

発掘調査から資料整理にいたるまでご理解とご協力をいたいた株式会社小申建設の方々を始めとする関係各位に対し、心から感謝の意を表する次第です。

平成15年3月31日

福岡市教育委員会
教育長 生田征生

例　言

1. 本書は共同住宅建設に伴い福岡市教育委員会埋蔵文化財課が平成12(2000)年度に発掘調査を実施した福岡市東区箱崎1丁目2511番地他所在の箱崎遺跡第24次調査の報告である。
2. 本書に掲載した遺構・遺物の実測・撮影は担当の福岡市教育委員会埋蔵文化財課佐藤一郎が行った。
3. 製図は遺構を石久美子、遺構の一部・遺物は佐藤が行った。
4. 本書の執筆・編集は佐藤が行った。
5. 本報告の記録類、出土遺物は収蔵整理の後、福岡市埋蔵文化財センターで保管されるので、活用されたい。

| | | | |
|-------|----------------------|--------|-------------------|
| 調査番号 | 0047 | 遺跡略号 | H K Z - 24 |
| 調査地地籍 | 東区箱崎1丁目2511番地他 | 分布地図番号 | 箱崎34 |
| 開発面積 | 961.58m ² | 調査面積 | 397m ² |
| 調査期間 | 2000.10.23~2001.1.31 | | |

本文目次

| | |
|-------------|----|
| I.はじめに | |
| 1 調査にいたる経過 | 1 |
| 2 調査の組織 | 1 |
| II.遺跡の位置と環境 | 3 |
| III.発掘調査の概要 | 4 |
| IV.遺構と遺物 | |
| 1 検出遺構 | 6 |
| 2 出土遺物 | 10 |
| V.小結 | 15 |

表目次

| | |
|-------------|----|
| 第1表 出土上器計測表 | 16 |
|-------------|----|

挿図目次

| | |
|-----------------------|----|
| 第1図 箱崎遺跡と周辺の遺跡 | 2 |
| 第2図 箱崎遺跡第24次調査地域周辺図 | 4 |
| 第3図 箱崎遺跡第24次調査遺構配置図 | 5 |
| 第4図 井戸実測図(1) | 7 |
| 第5図 井戸実測図(2) | 8 |
| 第6図 S X 07木棺墓・上部石組実測図 | 9 |
| 第7図 出土遺物実測図(1) | 11 |
| 第8図 出土遺物実測図(2) | 13 |
| 第9図 出土遺物実測図(3) | 14 |
| 第10図 出土遺物実測図(4) | 15 |

図版目次

- | | | |
|-----|--|---|
| 図版1 | (1) B-2・3区I層上面全景(南西から) (2) B-2・3区I層下面全景(北東から) (3) B-4~6区I層上面全景(南西から) (4) B-4~6区I層下面全景(南西から) | |
| 図版2 | (1) B-4・5区I層下面全景(北西から) (3) SK 08 土坑(南西から) | (2) SK 04 土坑(南西から) (4) SK 14 上坑(北東から) |
| 図版3 | (1) SX 07 上面石組遺構(南東から) (3) SE 30 井戸(北から) (5) SE 31 井戸(北西から) (7) SE 81 土層(北西から) | (2) SX 07 木棺墓(南西から) (4) SE 30 土層(北東から) (6) SE 81 井戸(北東から) (8) SD 82・97・81(西から) |
| 図版4 | (1) SE 82・97 井戸(西から) (3) SE 90 井戸(東から) (5) SE 92 井戸(南東から) (7) SE 98・91 井戸(東から) | (2) SE 91 井戸(南東から) (4) SE 91 井戸(北東から) (6) SE 93 井戸(東から) (8) A・B-1区全景(北東から) |

I は じ め に

1 調査にいたる経過

2000年（平成12年）5月8日、株式会社小串建設から本市に対して東区箱崎1丁目2511他4筆における共同住宅新築工事に伴う埋蔵文化財事前審査申請書が提出された。申請地は周知の埋蔵文化財包蔵地である箱崎遺跡のほぼ中央部にあたる。申請地の西側では共同住宅建築に伴う発掘調査が行われている。福岡市教育委員会埋蔵文化財課はこれを受け2000年（平成12年）7月27日に試掘調査を行った。現況は遊技場および市場で、解体された遊技場部分で試掘調査が行われた。調査の結果、現地表面下170cmまでは搅乱が及び、その下、基盤の砂層上面で井戸や柱穴等の遺構を確認した。なお以前地下室があった部分については遺構が残存しないものとして、調査の対象から除外している。9月5日には申請地の北側で再試掘調査を行い、基盤の砂層上面に遺物包含層（灰褐色砂質土）が確認されその上面においても遺構が確認された。申請者と埋蔵文化財課は文化財保護に関する協議をもったが、共同住宅が新たに建設される部分約400m²を対象にやむを得ず記録保存のための発掘調査を行うこととなった。

調査は翌2000（平成12）年10月23日から翌2001（平成13）年1月23日まで行われた。

2 調査の組織

調査委託 福岡市教育委員会

調査主体 福岡市教育委員会文化財部埋蔵文化財課

調査総括 埋蔵文化財課長 山崎純男

調査第2係長 力武卓治（前任） 田中寿夫（現任）

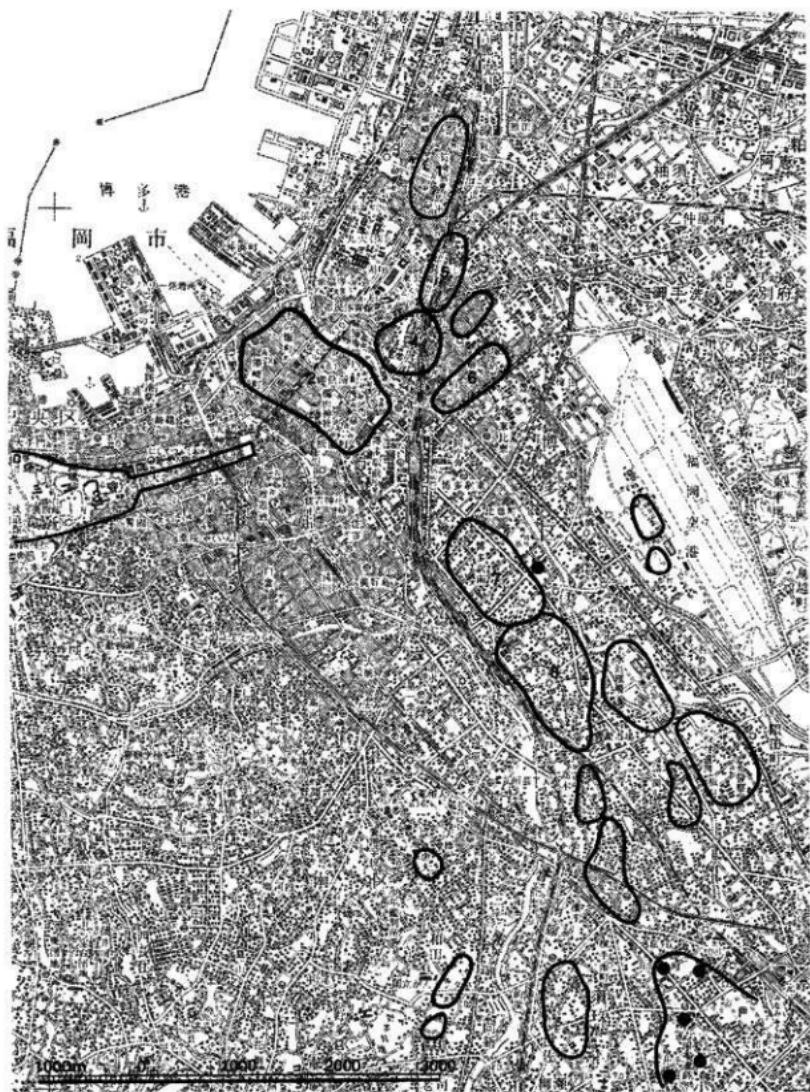
庶務担当 文化財整備課 御手洗清

調査担当 試掘調査 加藤隆也 大塚紀宣

発掘調査 佐藤一郎

発掘調査・資料整理協力者 大崎宏之・尾花憲吾・佐藤俊治・野田淳一・樋口宏樹・平位拓巳・宮本碧・石川洋子・木山啓子・嶋ヒサ子・田原キヌエ・為房紋子・鍋山治子・西田文子・濱地静子・播磨千恵子・播磨博子・福場真由美・北條こず江・水田ミヨ子・村井藤枝・村山巳代子・持丸玲子・森田祐子・山口慶子・萬スミヨ・相川和子・石永久美子・小田敬子

その他、発掘調査に至るまで諸々の条件整備、調査中の調整等について施主の株式会社小串建設の皆様には多大なご理解とご協力をいただき、調査が円滑に進行し無事終了することができました。ここに深く感謝します。



1. 箱崎遺跡 2. 博多遺跡群 3. 福岡遺跡・酒體館跡 4. 吉塚遺跡 5. 壓柏遺跡
6. 古塚本町遺跡 7. 比恵遺跡群 8. 那珂川遺跡群

第1図 箱崎遺跡と周辺の遺跡

II 遺跡の位置と環境

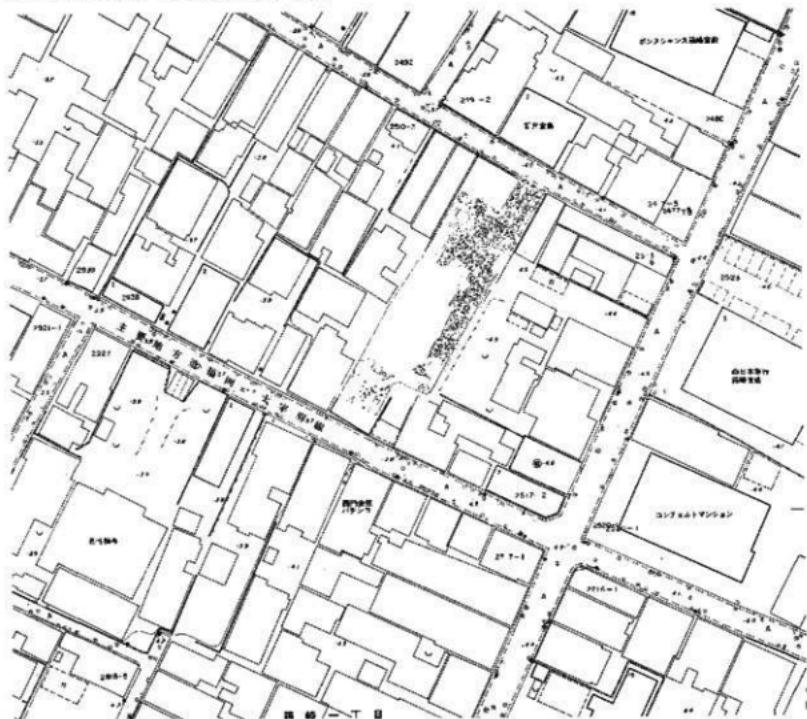
箱崎遺跡は博多湾沿いに連なる古砂丘、宇美川下流域、多々良川河口左岸に位置する弥生時代終末から近世に至る複合遺跡である。その推定範囲は南北1.2km、東西0.5kmを測る。式内社筥崎宮の所在地としてひろく知られている。弥生時代終末から墳墓が営まれている。923（延長元）年に總波郡人分宮（現在の嘉徳郡總波町）から遷座勧請されたのが筥崎宮（宮は筥崎、地名であれば箱崎と記するのが原則とされる）の始まりである。1051（永承6）年石清水別当が筥崎宮檢校に任命され、石清水八幡宮の別宮となる。權門社寺との結びつきは畿内系の土器や瓦等の考古遺物からも窺うことができる。中世前半からは対外交渉の拠点の一つとして、宋商人が居留するようになりその中心地「博多」を補完する役割を担った。筥崎遺跡の広い地域でこの時期の遺構が検出されている。1151（仁平元）年には大宰府の官人が博多・箱崎の宋人屋敷を大追捕している。「宇治拾遺物語」や「今昔物語」には11世紀初めに筥崎宮の神官が宋人と交渉を持ち多人な利を得ていたことが記されている。近年、遺跡の南西部でこの時期の遺構群が検出されている。1274（文永11）・1281（弘安4）年の蒙古襲来では博多湾一帯が戦場となり、筥崎宮の焼失など当遺跡の範囲でも多大な被害を蒙っている。遺跡の北部では13世紀後半から14世紀にかけての遺構群が広く検出されているが、本報告の第24次調査地を周辺の限られた範囲ではその時期の焼土層が検出されている。

参考文献

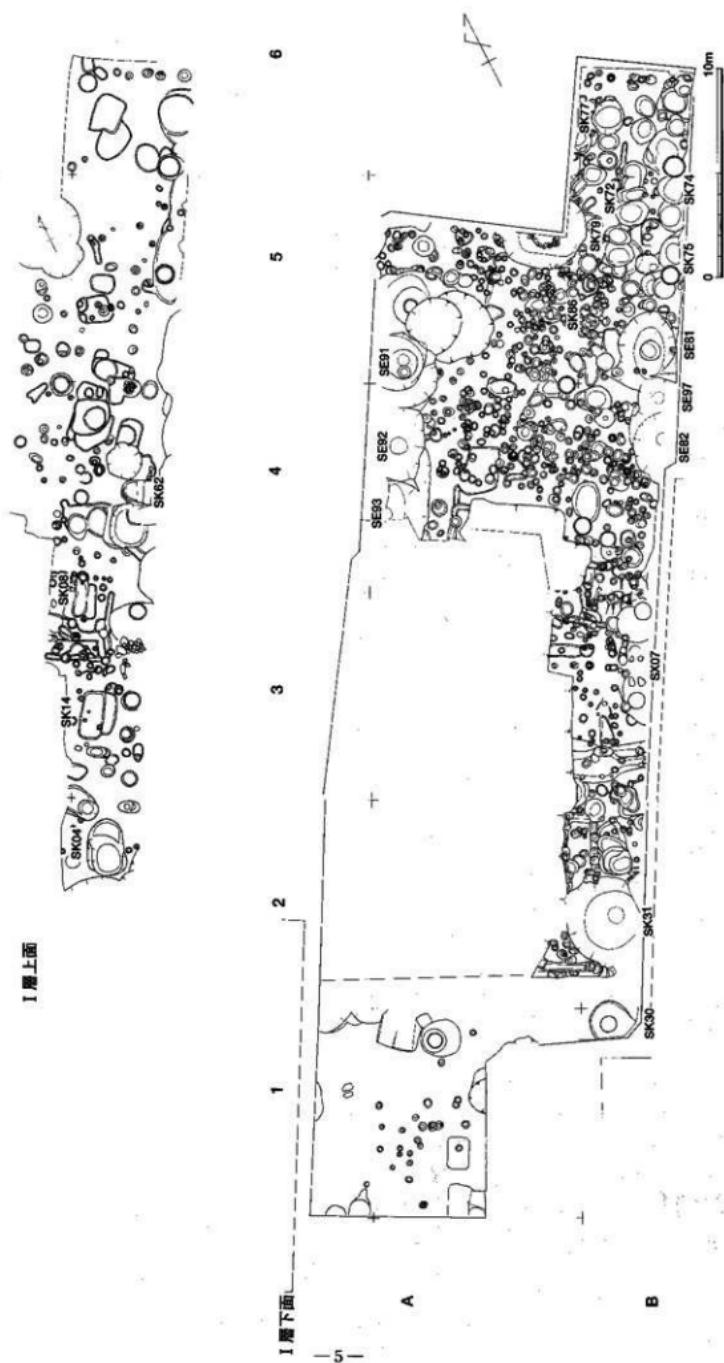
- 川添昭二編「よみがえる中世I 東アジアの國際都市」1988 平凡社
川添昭二「中世九州の政治と文化」1981 文獻出版
西日本新聞社福岡県百科事典刊行本部編「福岡県百科事典」1982 西日本新聞社
「角川日本地名大辞典」編纂委員会編「角川日本地名大辞典 40 福岡県」1988 角川書店

III 発掘調査の概要

2000(平成12)年10月26日に発掘機材を搬入、翌27日搅乱層剥取りから調査を開始、11月6日からは作業員を入れ、搅乱の除去、遺構検出に着手した。申請地の中央部分には地下室による搅乱があり、調査対象外となっている。南側(Ⅰ区)は基盤の砂層まで搅乱が及び、遺構の残存は良くない。11月14日に写真撮影、16日には実測を終了した。9日から並行して中央部搅乱東側のⅡ区の遺構検出に入った。現地表から約8cmの搅乱層下で遺物包含層(灰褐色砂質土)を確認した。その上面には部分的に焼上層がみられた。時期は13世紀頃とみられる。包含層に掘り込まれた遺構には焼上や炭化物を含んでおり、上師器小皿や杯を大量に廃棄した楕円形の土坑、龍泉窯系青磁(南宋後半)杯・小碗や上師器小皿を廃棄した長椭円形の土坑、龍泉窯系青磁貼花双魚文盤、褐釉陶器梅瓶を埋納した土坑の他、柱穴、幅狭な溝等を検出した。包含層上面より30~40cm下で基盤の砂層となる。11月24日に写真撮影、11月末から実測を経て、12月6日からは包含層を掘り下げ、下層の遺構検出に入った。14日の包含層掘り下げの際に、上面の石組下から木棺墓SX07を検出した。11月24日からは並行して搅乱北側のⅢ区での遺構検出を始めた。西側を除いて包含層が残存し、12月20日から検出遺構の撮影・実測作業の後東側の包含層掘り下げを行い、翌1月4日からは下層での遺構検出に入った。井戸が多く検出され、中央部の搅乱はいわれていたほど大きくはなく、調査区域を拡張した。2月20日ですべての調査を終了した。



第3図 箱崎遺跡第24次調査遺構記図



IV 遺構と遺物

1 検出遺構

井戸

SE30（第4図 図版3）

I層下面、B-1で検出した。掘り方は上面径2.0mの略円形を呈し、深さは1.4mを測る。南端は調査区域外に延びる。基底部中央に上端55cm、下端径50cm、深さ15cmの桶側の痕跡がみられた。

SE31（第4図 図版3）

I層下面、B-2で検出した。掘り方は上面径4.1mの円形を呈し、深さは2.4mを測る。南東が調査区域外に延びる。基底部中央に直径75cm、深さ40cmの桶側が据えられていた。

SE81（第5図 図版3）

I層下面、B-5で検出した。掘り方は上面径3.0mの円形を呈し、深さは2.2mを測る。南東が調査区域外に延びる。基底部中央に直径70cm、深さ60cmの桶側が据えられていた。

SE82（第5図 図版3）

I層下面、B-4で検出した。掘り方は上面径3.5mの円形を呈し、深さは2.0mを測る。基底部中央に直径55cm、深さ65cmの桶側が据えられていた。

SE91（第3図 図版4）

I層下面、A-5で検出した。掘り方は上面径2.8mの円形を呈し、深さは2.5mを測る。基底部中央に直径55cm、深さ70cmの桶側が据えられていた。西端は調査区域外に延びる。SE98を切っており、その山げ物の井戸枠痕跡がみられた。

SE92（第3図 図版4）

I層下面、A-4で検出した。掘り方は上面径2.6mの円形を呈し、深さは2.4mを測る。基底部中央に直径80cm、深さ100cmの桶側が痕跡がみられた。西半部は調査区域外に延びる。

SE93（第5図 図版4）

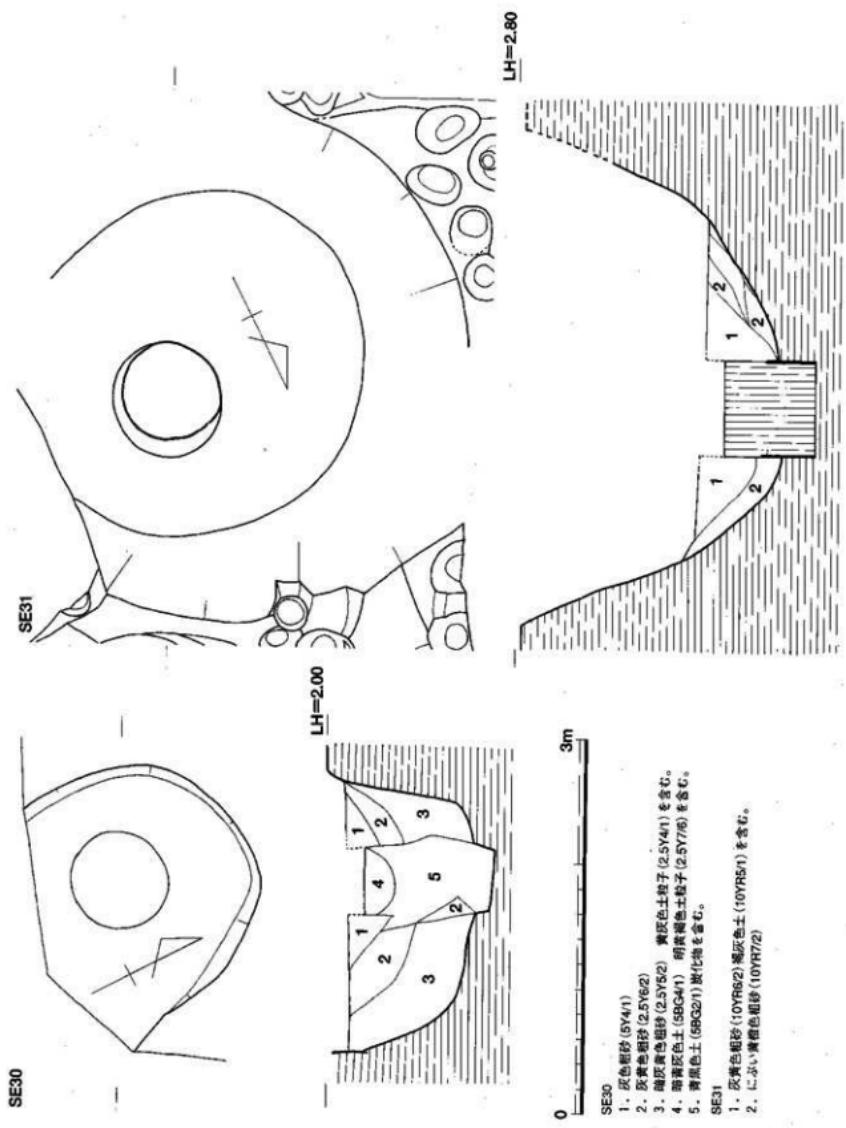
I層下面、A-4で検出した。掘り方は上面径1.8m以上の円形を呈し、深さは1.7mを測る。基底部中央に上端径55cm、下端径50cm、深さ45cmの桶側が据えられていた。西半部が調査区域外に延び、南半部は擾乱を受けている。

SE97（第3図 図版4）

I層下面、B-4で検出した。掘り方は上面径1.7mの円形を呈し、調査区の壁面にかかっていたため、底面まで確認できなかった。検出した深さ2.1mを測る。基底部中央に直径60cmの桶側が据えられていた。東半部が調査区域外に延びる。

木棺墓 SX07（第6図 図版3）

上面の石組をI層上面、人骨・供獻遺物・墓壙はI層掘り下げの際に検出した。南端が現代の井戸によって破壊されており、石組は2.5×1.5mのL字状に残存し、草塙の全長2.5m以上、幅1.5mを測る。草塙底面の四隅北側に20～25cm、南側に25～45cmの木棺を支えたとみられる石を南北1.2m、東西0.5mの間隔を取って配す。木棺の痕跡や釘は確認されなかつたが、墓壙底面の配石（支石）から木棺墓と断定した。墓壙底面から15～20cmの支石上面（推定される木棺底面の高さ）のレベルで横臥する人骨を検出した。人骨頭部付近、底面から20～30cm浮いた状態で供獻された青磁碗2、白磁皿1、上師器小皿5、刀子の断片が出土した。棺外に埋置されたものであろう。

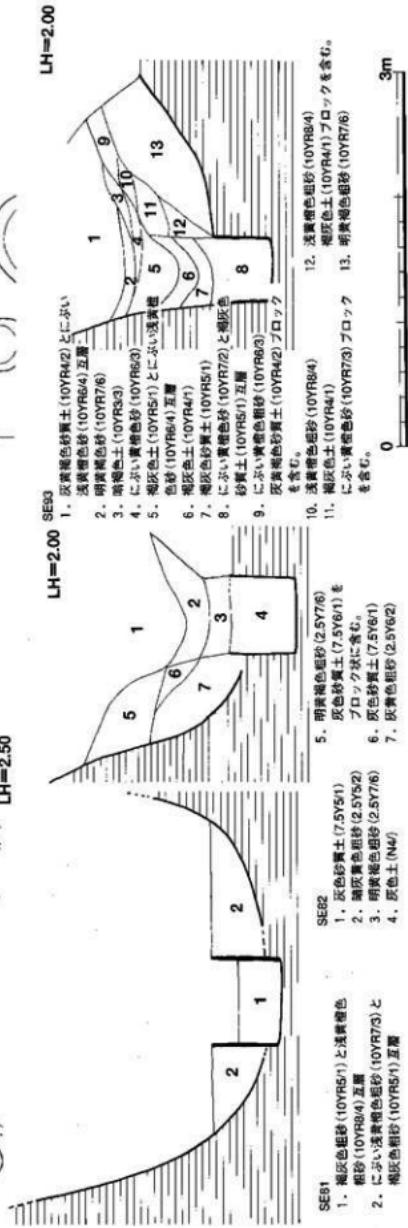
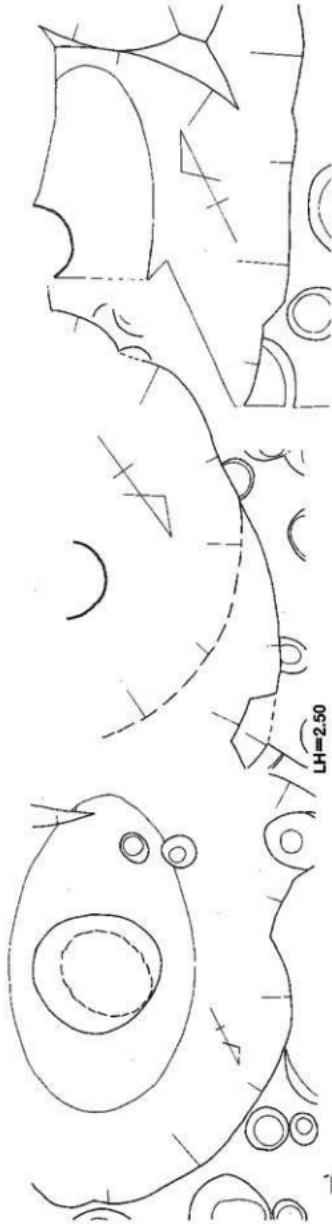


第4図 井戸実測図 (1)

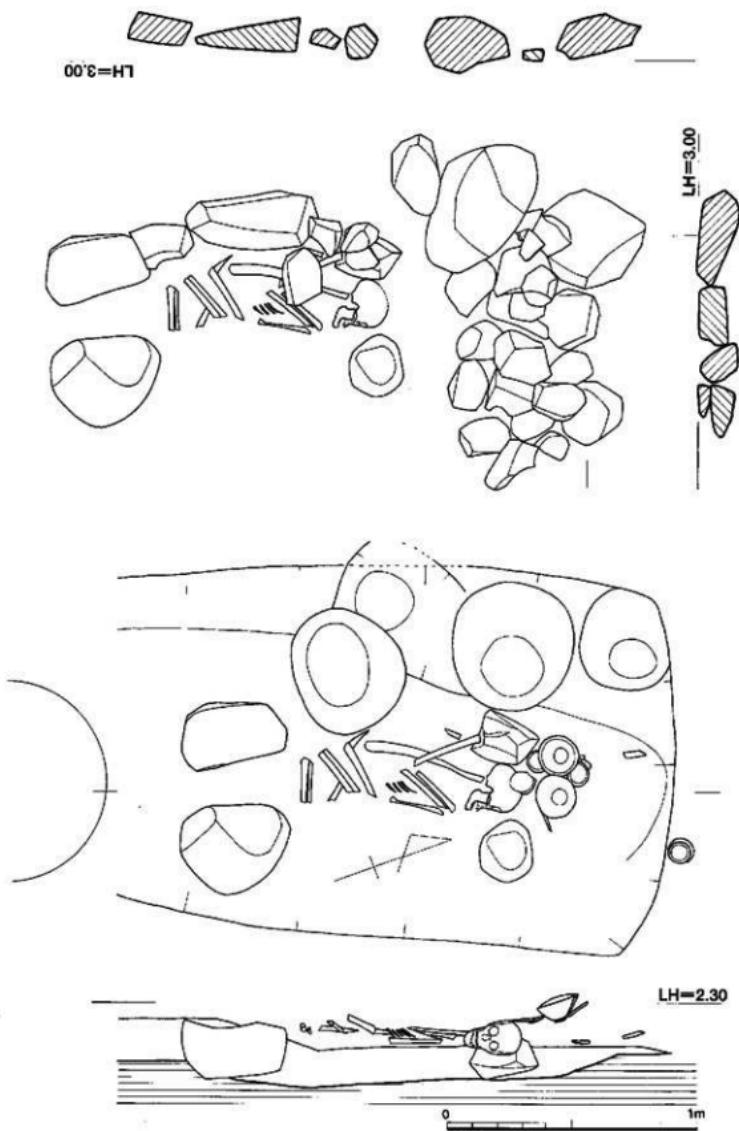
SE81

SE82

SE93



第5図 井戸実測図 (2)



第6図 SX07 木棺墓・上部石組実測図

2 出土遺物

SK04 出土遺物（第7図）

土師器 底部は糸切り離しにより、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕がみられる。

小皿（1～17） 口径 8.2～9.3cm、器高 0.8～1.4cm、底径 6.3～8.1cm を測る。

高台付小皿（18～22） 口径 9.0～9.4cm、器高 2.1～2.8cm、高台径 5.2～7.4cm を測る。

杯（23～35） 口径 12.3～14.0cm、器高 2.4～2.7cm、底径 8.5～10.1cm を測る。

青白磁 合子（36） 天井部外面に双鳥文を型押しする蓋で、外面に施釉され、口縁部で搔き取られる。

SK08 出土遺物（第7図）

土師器 底部は糸切り離しにより、体部外面から内底まで回転横ナデされる。

小皿（37～41） 口径 7.9～8.9cm、器高 1.0～1.4cm、底径 6.0～7.3cm を測る。

杯（42） 口径 12.3cm、器高 2.7cm、底径 8.5cm を測る。

青磁

杯（43） 体部は丸みを持ち、口縁部は横に折れる。体部外面に蓮弁を削り出し、見込に双魚文を貼付する。全面に施釉の後、高台端部の釉を搔き取っている。

小碗（44） 内外面無文の断面四角の高台を持つ小碗である。

SK14 出土遺物（第8図）

青磁 盤（1） 43を大型にした盤で、丸みを持った体部から、横折れの口縁部が付く。体部外面に削り出し蓮弁、見込の貼り付け双魚文を施している。全面に施釉の後、高台端部の釉を搔き取っている。見込には重ね焼きの際の溶着痕が残る。使用中、火を受けたため器面がただれている。完形で、口径 21.2cm、器高 4.9cm、高台径 10.1cm を測る。

陶器 梅瓶（2） 外面から口縁部内面まで灰褐色 7.5Y4/2～黒色 N1.5/の釉が掛けられている。完形で、口径 6.3cm、器高 20.8cm、底径 7.1cm、上位にある体部最大径 17.5cm を測る。

SK23 出土遺物（第8図）

土師器 小皿（3・4） 底部は糸切り離しにより、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕がみられる。口径 7.8・8.2cm、器高 1.0cm、底径 6.6・6.2cm を測る。

SK27 出土遺物（第8図）

土師器 小皿（5） 底部は糸切り離しにより、体部外面から内底まで回転横ナデされる。口径 8.2cm、器高 1.3cm、底径 6.8cm を測る。

SK65 出土遺物（第8図）

土師器 小皿（6） 底部は糸切り離しにより、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕がみられる。口径 8.1cm、器高 1.2cm、底径 5.9cm を測る。

SK62 出土遺物（第8図）

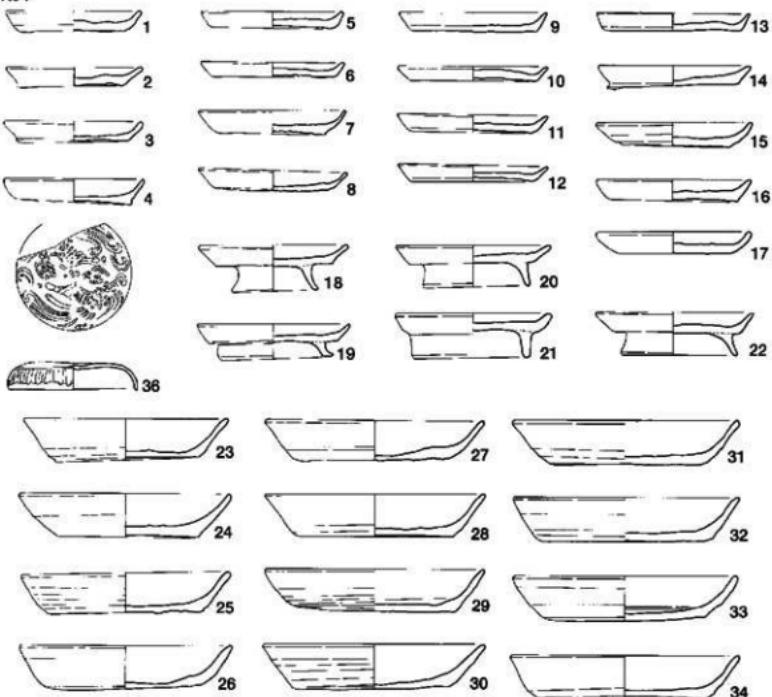
青磁

小碗（7） 無文の小碗で、断面四角の高台を持つ。

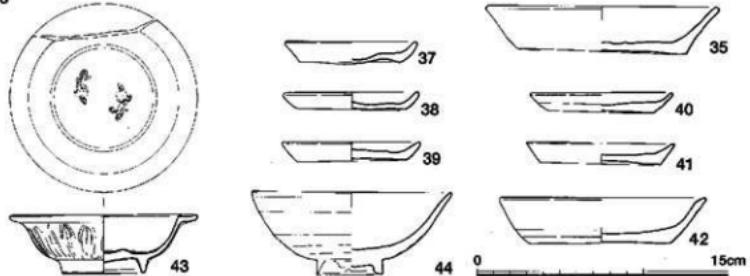
皿（8） 体部は丸みを持ち、口縁部は薄く引き出される。体部外面に蓮弁を削り出す。全面施釉の後、高台端部の釉を搔き取っている。

陶器 小皿（9） 上げ底状の底部の削り出しが粗雑で、口縁部は直線的にのび、端部が外傾する。にぶい橙色 7.5YR7/4 の胎土に漸暗褐色 7.5YR2/3 の釉が掛けられている。

SK04



SK08



第7図 出土遺物実測図(1)

SK72 出土遺物（第8図）

青磁 皿（10） 体部中位で屈曲し、外反する口縁部がのびる。平坦な内底見込に之字形点綴文を施す。

SK74 出土遺物（第8図）

青磁 碗（11） 体部外面にヘラ状の施文具を用いて条線を放射状に彫る。内面はクシ状の施文具を用いて文様が描かれる。

SK75 出土遺物（第8図）

土師器 小皿（12・13） 底部は糸切り離しにより、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕がみられる。口径 8.7・9.2cm、器高 1.0・1.1cm、底径 6.5・6.9cm を測る。

白磁 皿（14） 口縁部が外反し、内底見込を輪状に搔き取る高台杯皿である。

SK77 出土遺物（第8図）

土師器 底部は糸切り離しにより、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕がみられる。

小皿（15～20） 口径 8.6～9.2cm、器高 1.1～1.5cm、底径 6.1～7.2cm を測る。

杯（21） 口径 13.3cm、器高 2.6cm、底径 9.2cm を測る。

白磁 皿（22） 口禿の皿で、口縁部は直線的である。

SK79 出土遺物（第8図）

土師器 底部は糸切り離しにより、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕がみられる。

小皿（23） 口径 9.5cm、器高 1.4cm、底径 7.0cm を測る。

杯（24） 口径 16.9cm、器高 3.1cm、底径 12.2cm を測る。

SK86 出土遺物（第8図）

土師器 小皿（25～37） 底部は糸切り離しにより、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕がみられる。口径 8.8～9.6cm、器高 0.9～1.3cm、底径 6.6～7.8cm を測る。

SE30 出土遺物（第9図）

土師器 小皿（1） 底部は糸切り離しにより、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕がみられる。口径 10.3cm、器高 1.1cm、底径 7.9cm を測る。

瓦器 楼（2） 丸みを持った体部から薄く引き出された口縁部が外反してのびる。体部内外面ともヘラ磨きされ、体部中位は肥厚し、外面に指頭圧痕、そのやや下には糸切り離し痕が残る。井戸跡内からの出土。口径 16.1cm、器高 5.6cm、高台径 6.5cm を測る。

SE31 出土遺物（第9図）

土師器 杯（3・4） 底部は糸切り離しにより、体部外面から内底まで回転横ナデされる。口径 12.4・12.6cm、器高 2.2・2.6cm、底径 9.0・8.4cm を測る。

SE91 出土遺物（第9図）

土師器 小皿（5・6） 底部は糸切り離しにより、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕がみられる。口径 9.0・9.5cm、器高 1.1・1.2cm、底径 7.1・8.0cm を測る。

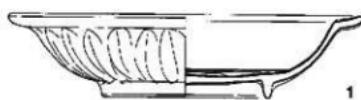
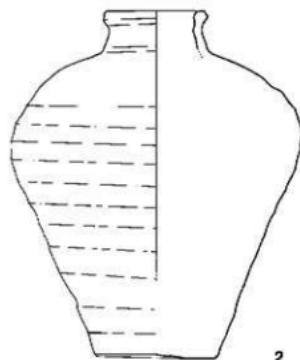
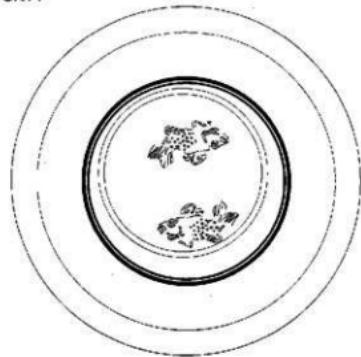
SE92 出土遺物（第9図）

土師器 小皿（7～10） 底部は糸切り離しにより、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕がみられる。口径 7.3～9.8cm、器高 0.9～1.4cm、底径 5.5～7.3cm を測る。

SE97 出土遺物（第9図）

土師器 杯（11） 底部は糸切り離しにより、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕がみられる。口径 12.8cm、器高 2.6cm、底径 9.2cm を測る。

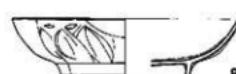
SK14



SK62



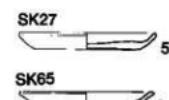
7



8



SK65



4

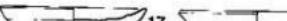
SK72



SK77



15



17



19



21



16



18



20



22



SK86



25



29



33



30



34



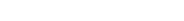
36



27



31



37



28



32



15cm

0

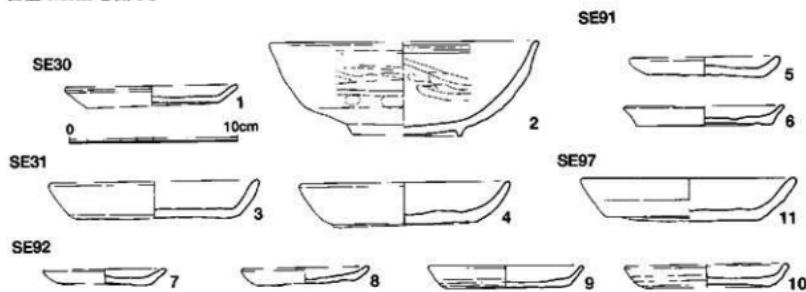
第8図 出土遺物実測図(2)

SX07 出土遺物（第 10 図） いずれも供獻されたもので、完形である。

土器器 小皿（1～5） 底部は糸切り離しにより、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕がみられる。口径 8.8～9.6cm、器高 0.9～1.4cm、底径 6.2～7.4cm を測る。

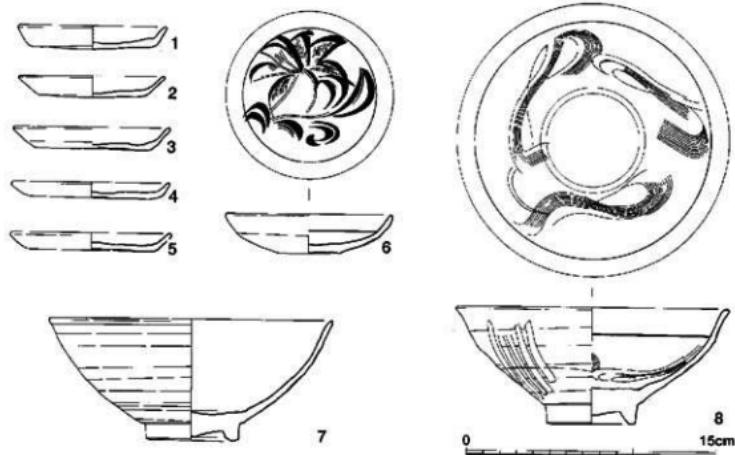
白磁 皿（6） 体部から口縁部にかけて内溝し、底部はやや上げ底状を呈する。内底見込にヘラとクシ状の施文具を用いて、花卉文を施す。胎土は灰白色 N8/、釉は灰白色 5GY8/1 透明を呈する。口径 10.0cm、器高 2.4cm、底径 3.6cm を測る。

青磁 碗（7・8） 底部は厚く、断面台形の高台を持つ。7 は内外面とも無文の碗である。胎土は 2.5Y8/2、釉は浅黄色 2.5Y7/4 を呈する。口径 17.0cm、器高 7.3cm、高台径 5.5cm を測る。8 は体部外面にヘラ状の施文具を用いて条線を放射状に彫る。内面はクシ状の施文具を用いて文様が描かれる。胎土は灰白色 10Y6/2、釉は灰オリーブ色 7.5Y6/2 透明を呈する。口径 16.4cm、器高 7.0cm、高台径 5.4cm を測る。



第 9 図 出土遺物実測図（3）

SX07



第10図 出土遺物実測図(4)

V 小 結

土師器がまとまって出土し、それらの法量から時期を推定できる遺構がいくつかみられた。SK86・木棺墓 SX07 が 12 世紀中頃（大宰府史跡 SK1204 併行）、土師器廐棄土坑 SK04、土坑 SK77 が 13 世紀前後（同 SK1085）、龍泉窯系青磁Ⅲ類（南宋後半）杯・小碗や土師器小皿を廐棄した土坑 SK08 は 13 世紀中頃（同 SK601）と考えられる。今回の調査で検出された遺構の中で最も古い段階に属する遺構は包含層（灰褐色砂質土）上面で検出した。木棺墓 SX07 は上部の石組は包含層上面で確認され、包含層掘り下げの際に人骨や供獻の遺物が出土した。SK86 は包含層下約 30cm の基盤砂層で検出されたが、本来はその上面から掘り込まれていた遺構であったが、包含層上面で遺構の識別が困難であったため、下層での検出となった。包含層上面には部分的に焼土層がみられた。包含層に掘り込まれた SK08 や同時期の遺構には焼土や炭化物を含んでいた。SK14 からは同じく龍泉窯系青磁Ⅲ類の盤が出土しているが、使用時に熱を受け器表がただれている。この他にも熱により器表が荒れている陶磁器片が數片みられ、13 世紀中頃から後半にかけて調査地一帯で大火があったことを示している。1274（文永 11）・1281（弘安 4）年の蒙古襲来による可能性が大である。調査面積が狭隘で、今までの調査成果を加味しても結論めいたことを述べることははばかられるが、今後の発掘調査でこの時期の焼土層、高熱を受けた遺物を追跡することによって、蒙古襲来で被災した範囲を押さえることが可能となろう。

| 捕団番号 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 捕団番号 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 捕団番号 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|--------|--------|--------|-------------|--------|--------|--------|-------------|--------|--------|--------|-------------|-----|-----|-----|-------------|------|-----|-----|--------------|------|-----|-----|--|--|--|--|--|--|--|--|
| SK04 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 土師器小皿 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 8.2 | 1.2 | 6.3 | 41 | 8.9 | 1.3 | 7.3 | SK85 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 8.2 | 1.1 | 6.5 | 42 | 12.3 | 2.7 | 8.5 | 土師器小皿 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 8.3 | 1.2 | 6.4 | SK23 | | | | | | | | | | | | 36 | 8.8 | 0.9 | 7.3 | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 8.5 | 1.4 | 6.9 | 土師器小皿 | | | | | | | | | | | | 37 | 9.2 | 0.9 | 8.4 | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 8.5 | 1.0 | 7.1 | 3 | 7.8 | 1.0 | 6.6 | SE30 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 8.6 | 0.9 | 7.2 | 4 | 8.2 | 1.0 | 6.2 | 上師器小皿 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | 8.8 | 1.4 | 6.5 | SK27 | | | | | | | | | | | | 1 | 10.3 | 1.1 | 7.9 | | | | | | | | | | | | |
| 8 | 8.9 | 1.2 | 6.9 | 上師器小皿 | | | | | | | | | | | | 瓦器碗 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | 8.9 | 1.2 | 7.6 | 5 | 8.2 | 1.3 | 6.8 | 2 | 16.1 | 5.6 | 6.5 | SE31 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | 9.0 | 0.8 | 7.7 | 土師器小皿 | | | | | | | | | | | | 3 | 12.4 | 2.2 | 9.0 | | | | | | | | | | | | |
| 11 | 9.0 | 1.0 | 7.3 | 6 | 8.1 | 1.2 | 5.9 | 4 | 12.6 | 2.6 | 8.4 | SE91 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | 9.0 | 1.0 | 7.4 | SK75 | | | | | | | | | | | | 5 | 9.0 | 1.1 | 7.1 | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 9.0 | 1.0 | 8.1 | 土師器小皿 | | | | | | | | | | | | 6 | 9.5 | 1.2 | 8.0 | | | | | | | | | | | | |
| 14 | 9.1 | 1.2 | 7.8 | 12 | 8.7 | 1.0 | 6.5 | SE92 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | 9.2 | 1.4 | 6.4 | 13 | 9.2 | 1.1 | 6.9 | 上師器小皿 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 16 | 9.2 | 1.3 | 7.5 | SK77 | | | | | | | | | | | | 7 | 7.3 | 0.9 | 5.5 | | | | | | | | | | | | |
| 17 | 9.3 | 1.3 | 6.4 | 上師器小皿 | | | | | | | | | | | | 8 | 7.6 | 1.0 | 5.9 | | | | | | | | | | | | |
| 土師器高台付小皿 | | | | | | | | | | | | 9 | 9.2 | 1.3 | 7.3 | SE97 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 18 | 9.0 | 2.8 | 5.2 | 15 | 8.6 | 1.2 | 6.7 | 上師器小皿 | | | | | | | | | | | | 10 | 9.8 | 1.4 | 7.3 | | | | | | | | |
| 19 | 9.2 | 2.1 | 6.9 | 16 | 8.7 | 1.3 | 6.1 | 土師器杯 | | | | | | | | | | | | SK79 | | | | | | | | | | | |
| 20 | 9.2 | 2.5 | 6.9 | 17 | 8.8 | 1.1 | 7.1 | 土師器小皿 | | | | | | | | | | | | 11 | 12.8 | 2.6 | 9.2 | | | | | | | | |
| 21 | 9.4 | 2.7 | 7.1 | 18 | 9.0 | 1.5 | 7.2 | 土師器杯 | | | | | | | | | | | | SX07 | | | | | | | | | | | |
| 22 | 9.4 | 2.5 | 7.4 | 19 | 9.2 | 1.4 | 6.6 | 土師器小皿 | | | | | | | | | | | | 1 | 8.8 | 1.4 | 7.4 | | | | | | | | |
| 土師器杯 | | | | | | | | | | | | 2 | 8.8 | 1.3 | 6.2 | 土師器小皿 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 23 | 12.3 | 2.4 | 8.6 | 21 | 13.3 | 2.6 | 9.2 | 土師器杯 | | | | | | | | | | | | 3 | 9.3 | 1.3 | 6.8 | | | | | | | | |
| 24 | 12.6 | 2.6 | 8.5 | SK79 | | | | | | | | | | | | 4 | 9.4 | 0.9 | 7.4 | SK86 | | | | | | | | | | | |
| 25 | 12.6 | 2.4 | 9.3 | 23 | 9.5 | 1.4 | 7.0 | 土師器小皿 | | | | | | | | | | | | 5 | 9.6 | 1.1 | 7.3 | | | | | | | | |
| 26 | 12.8 | 2.6 | 9.0 | 24 | 16.9 | 3.1 | 12.2 | 土師器杯 | | | | | | | | | | | | (括弧内の数値は復元値) | | | | | | | | | | | |
| 27 | 13.1 | 2.4 | 8.8 | 25 | 9.0 | 1.0 | 7.5 | 土師器小皿 | | | | | | | | | | | | 1 | 8.8 | 1.4 | 7.4 | | | | | | | | |
| 28 | 13.1 | 2.5 | 9.3 | 26 | 9.0 | 1.2 | 7.6 | 土師器小皿 | | | | | | | | | | | | 2 | 8.8 | 1.3 | 6.2 | | | | | | | | |
| 29 | 13.1 | 2.5 | 9.5 | 27 | 9.2 | 1.1 | 6.6 | 土師器小皿 | | | | | | | | | | | | 3 | 9.3 | 1.3 | 6.8 | | | | | | | | |
| 30 | 13.3 | 2.7 | 8.8 | 28 | 9.2 | 1.1 | 7.5 | 土師器小皿 | | | | | | | | | | | | 4 | 9.4 | 0.9 | 7.4 | | | | | | | | |
| 31 | 13.5 | 2.6 | 9.0 | 29 | 9.2 | 1.2 | 7.6 | 土師器小皿 | | | | | | | | | | | | 5 | 9.6 | 1.1 | 7.3 | | | | | | | | |
| 32 | 13.5 | 2.6 | 9.8 | 30 | 9.2 | 1.3 | 7.6 | 土師器小皿 | | | | | | | | | | | | 1 | 8.8 | 1.4 | 7.4 | | | | | | | | |
| 33 | 13.5 | 2.7 | 9.8 | 31 | 9.4 | 1.1 | 7.7 | 土師器小皿 | | | | | | | | | | | | 2 | 8.8 | 1.3 | 6.2 | | | | | | | | |
| 34 | 13.6 | 2.7 | 10.1 | 32 | 9.4 | 1.2 | 7.7 | 土師器小皿 | | | | | | | | | | | | 3 | 9.3 | 1.3 | 6.8 | | | | | | | | |
| 35 | 14.0 | 2.7 | 10.0 | 33 | 9.6 | 1.2 | 7.8 | 土師器小皿 | | | | | | | | | | | | 4 | 9.4 | 0.9 | 7.4 | | | | | | | | |
| SK08 | | | | | | | | | | | | 5 | 9.6 | 1.1 | 7.3 | 土師器小皿 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 上師器小皿 | | | | | | | | | | | | 31 | 9.4 | 1.1 | 7.7 | 土師器小皿 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 37 | 7.9 | 1.4 | 6.0 | 32 | 9.4 | 1.2 | 7.7 | 土師器小皿 | | | | | | | | | | | | 1 | 8.8 | 1.4 | 7.4 | | | | | | | | |
| 38 | 8.1 | 1.0 | 6.4 | 33 | 9.6 | 1.2 | 7.8 | 土師器小皿 | | | | | | | | | | | | 2 | 8.8 | 1.3 | 6.2 | | | | | | | | |
| 39 | 8.2 | 1.2 | 6.4 | 34 | 9.6 | 1.2 | 7.8 | 土師器小皿 | | | | | | | | | | | | 3 | 9.3 | 1.3 | 6.8 | | | | | | | | |
| 40 | 8.5 | 1.1 | 6.3 | 35 | 9.6 | 1.3 | 7.8 | 土師器小皿 | | | | | | | | | | | | 4 | 9.4 | 0.9 | 7.4 | | | | | | | | |

第1表 出土土器計測表

図 版



(1) B-2・3 区Ⅰ層上面全景（南西から）



(2) B-2・3 区Ⅰ層下面全景（北東から）



(3) B-4～6 区Ⅰ層上面全景（南西から）



(4) B-4～6 区Ⅰ層下面全景（南西から）



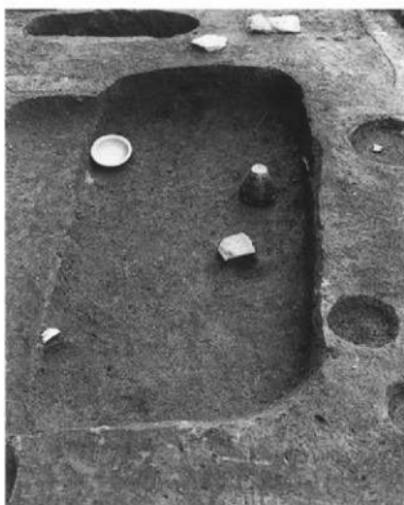
(1) B-4・5区Ⅰ層下面全景（北西から）



(2) SK04 土坑（南西から）



(3) SK08 土坑（南西から）



(4) SK14 土坑（北東から）



(1) SX07 上面石組遺構 (南東から)



(2) SX07 木棺墓 (南西から)



(3) SE30 井戸 (北から)



(4) SE30 土層 (北東から)



(5) SE31 井戸 (北西から)



(6) SE81 井戸 (北東から)



(7) SE81 土層 (北西から)



(8) SD82・97・81 (西から)



(1) SE82・97 井戸（西から）



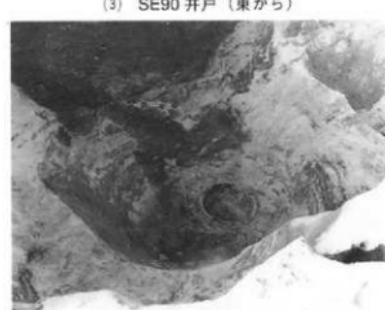
(2) SE91 井戸（南東から）



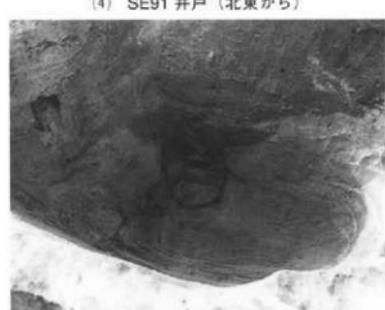
(3) SE90 井戸（東から）



(4) SE91 井戸（北東から）



(5) SE92 井戸（南東から）



(6) SE93 井戸（東から）



(7) SE98・91 井戸（東から）



(8) A・B-1 区全景（北東から）

箱崎 15

福岡市埋蔵文化財調査報告書第768集

2003年(平成15年)3月31日

発行 福岡市教育委員会
福岡市中央区天神1丁目8-1
(092)711-4667

印刷 大野印刷株式会社
福岡市博多区桜田2丁目2番65号
(092)414-1515

